

科目名	解剖学Ⅱ						
分野	専門基礎分野	担当教員	大島 勇人, 依田 浩子				
開講時期	1学年 2・3学期	単位数	講義	実技	演習	実習	
時間数	60		4				
科目の概要	人体の正常な形態と構造について学び、柔道整復師として必要な解剖学的知識を修得する。 人体解剖学では正常な人体の構造について肉眼解剖学的に諸器官の形態学的特徴と空間的結合・配列をその機能と関連して解説し、人体の構造を理解する。「解剖学Ⅱ」では、「細胞・組織学」、「人体発生学」、「脈管学」、「内臓学」(「内分泌系」を含む)、「神経解剖学」、「感覚器学」の講義を扱う。 「細胞・組織学」では、人体を構成する細胞・組織の構造や機能について学ぶ。「人体発生学」では、一つの受精卵からヒトの体が作られる過程を学ぶ。「脈管学」では、物質運搬の交通網である脈管系について学ぶ。「内臓学」では、栄養分を取り込む消化器系、ガス交換をする呼吸器系、分解産物を尿として体外に出す泌尿器系、子孫の増殖をはかる生殖器系、ホルモンを分泌する内分泌系を学ぶ。「感覚器学」では、外界の刺激を受け取って、それを神経に伝える器官である感覚器について学ぶ。また、「神経解剖学」では、刺激を伝達・統合する神経系の解剖学的特徴について学ぶ。 人体解剖学の理解には、ヒトのからだを系統別に分けて理解するだけではなく、脊椎動物						
学習の到達目標	解剖学総論の行動目標(到達目標)： ・ 人体の区分を述べることができる。 ・ 人体の方向用語を述べることができる。 細胞・組織学の行動目標(到達目標)： ・ 細胞の基本構造(核＋細胞質：細胞内小器官)について説明できる。 ・ 組織を4つに分け(上皮・支持・筋・神経組織)、それぞれの特徴を説明できる。 人体発生学の行動目標(到達目標)： ・ ヒトの発生過程の概略について説明できる。 脈管学の行動目標(到達目標)： ・ 動脈、毛細血管及び静脈の構造と血管系の役割を説明できる。 ・ 体循環と肺循環の2系統を説明できる。 ・ 心臓の基本構造と機能を説明できる。 ・ 動脈と静脈の流れの概略を説明できる。 ・ 上肢・下肢・体幹の血液循環の概略を説明できる。 ・ 胎児循環について説明できる。 ・ リンパ系の概要について説明できる。 内臓学の行動目標(到達目標)： ・ 消化管(食道、胃、小腸、大腸)の基本構造と機能を説明できる。 ・ 肝臓の構造と機能および胆汁の分泌経路を説明できる。 ・ 膵臓の外分泌部と内分泌部の特徴を説明できる。 ・ 気道系(鼻腔、副鼻腔、気管、気管支)の構造と機能を説明できる。 ・ 肺の構造と機能を説明できる。 ・ 各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。 ・ 腎臓と尿路(尿管、膀胱、尿道)の構造と機能を説明できる。 ・ 男性生殖器・女性生殖器の構造と機能を説明できる。 神経解剖学の行動目標(到達目標)： ・ 脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 ・ 脳脊髄神経と自律神経の違いについて説明できる。 ・ 脳と脊髄の基本的構造を説明できる。 感覚器学の行動目標(到達目標)： ・ 視覚器、平衡聴覚器、外皮、味覚器、嗅覚器の基本構造と機能を説明できる。						
成績評価の方法と基準	到達目標の理解度を評価するため「解剖学Ⅱ」では、前期と後期に「客観試験」を実施し、60点以上を合格とする。						
使用テキスト	「解剖学」改訂第2版：全国柔道整復師学校協会監修、岸 清・石塚 寛編、医歯薬出版、定価8,190円(税込)						
参考文献	解剖学：「入門人体解剖学」改訂第6版 藤田恒夫著、藤田信也改訂、南江堂、定価5,400円(税別)、「新解剖学」加藤 征監修、日本医事新報社、定価3,500(税別)						
実務経験を有する者	○						

講義計画	
1	人体解剖学概説①(依田・大島):A意義と分類 1解剖学の意義 2解剖学の分類 a.肉眼解剖学 b.顕微解剖学(組織学) c.発生学 3解剖学用語 a.方向と位置を示す用語 b.人体各部の名称、D器官系統 1器官の定義 2器官系、E人体の区分 1区分 2細区分 a.頭の部位 b.顔の部位 c.頰の部位 d.胸の部位 e.腹の部位 f.背の部位 g.会陰の部位 i.下肢の部位 3人体の区分線
2	人体解剖学概説②(依田・大島):B細胞および組織 1細胞 a.形態と内部構造 b.細胞周期と細胞分裂
3	人体解剖学概説③(依田・大島):2組織 a.組織の分類と特性
4	人体解剖学概説④(依田・大島):C発生 1人体の発生 a.生殖細胞 b.性染色体と性の決定 c.受精卵(原胚子)の分割とその後の発生 2各組織、器官の発生
5	脈管学①(依田・大島):A総論 1体循環と肺循環 a.肺循環 b.体循環 2血管の形態と構造 a.形態 b.構造 B心臓 1心臓の位置と形態 2心臓の構造 3心臓の弁 a.房室弁 b.動脈弁 4心臓壁の構造 a.心内膜 b.心筋層 c.心外膜 5刺激伝導系 a.洞房系 b.房室系 6心臓の脈管(冠状動脈・冠状静脈洞) a.右冠状動脈 b.左冠状動脈 c.冠状静脈洞 7心臓の神経 8心膜 a.線維性心膜 b.漿膜性心膜
6	脈管学②(依田・大島):C心脈管系 C-1肺循環(小循環) C-2体循環(大循環) 1動脈系 a.大動脈 b.頭部、頸部の動脈 c.上肢の動脈 d.胸大動脈 e.腹大動脈 f.骨盤部の動脈 g.下肢の動脈
7	脈管学③(依田・大島):2静脈系 a.上大静脈 b.下大静脈 c.門脈 d.骨盤部の静脈 e.下肢の静脈
8	脈管学④(依田・大島):3胎児循環 Dリンパ系 1リンパ本幹 2リンパ性器官 a.リンパ節の構造 b.リンパ節の分布 c.脾臓 d.胸腺
9	内臓学①(依田・大島):A 消化器 1消化器の働き 2消化器の種類と構造 a.口 b.口腔腺、歯、舌 c.咽頭 d.食道
10	内臓学②(依田・大島):e.胃 f.小腸 g.大腸 h.肝臓と胆道 i.膵臓 j.腹膜
11	内臓学③(依田・大島):B呼吸器 1呼吸器の働き 2呼吸器 a.外鼻 b.鼻腔と副鼻腔 c.咽頭 d.喉頭 e.気管および気管支 f.肺 g.胸膜 h.縦隔
12	内臓学④(依田・大島):C泌尿器 1泌尿器の働き 2泌尿器 a.腎臓 b.尿管 c.膀胱 d.尿道
13	内臓学⑤(依田・大島):D 生殖器 1生殖器の働き 2男性生殖器 a.精巣と精巣上体 b.精管 c.精囊 d.付属生殖器 e.陰茎と陰囊
14	内臓学⑥(依田・大島):3女性生殖器 a.卵巣 b.卵管 c.子宮 d.膣 e.外陰部 f.会陰 g.卵巣と子宮粘膜の周期的変化 h.胎盤
15	総合評価(まとめ)

16	内分泌系①(依田・大島):1内分泌器の働き 2内分泌器 a.下垂体 b.松果体 c.甲状腺
17	内分泌系②(依田・大島):d.上皮小体 e.副腎 f.膵臓 g.精巣 h.卵巣
18	神経解剖学①(依田・大島):A神経系の基礎 1神経系の区分と特徴 2神経組織 a.神経細胞(ニューロン) b.神経細胞の種類 c.支持細胞 3灰白質、白質と神経節、根
19	神経解剖学②(依田・大島):4中枢神経系の区分 5脳室系 6髄膜と脳脊髄液 a.硬膜 b.クモ膜 c.軟膜
20	神経解剖学③(依田・大島):B脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) b.間脳 c.中脳、橋、延髄 d.小脳
21	神経解剖学④(依田・大島):2伝導路 a.反射路 b.上行性伝導路 c.下行性伝導路
22	神経解剖学⑤(依田・大島):C脊髄 1区分 a.前根と後根(ベル・マジャンディーの法則) b.脊髄の内部構造 c.中枢神経系の血管
23	神経解剖学⑥(依田・大島):D末梢神経 1脳神経 a.嗅神経 b.視神経 c.動眼神経 d.滑車神経 e.三叉神経 f.外転神経 g.顔面神経 h.内耳神経
24	神経解剖学⑦(依田・大島):1脳神経 i.舌咽神経 j.迷走神経 k.副神経 l.舌下神経 2脊髄神経 a.脊髄神経後枝 b.頸神経叢 c.腕神経叢
25	神経解剖学⑧(依田・大島):2脊髄神経 d.胸神経 e.腰神経叢 f.仙骨神経叢 g.陰部神経叢 h.尾骨神経 i.デルマトーム
26	神経解剖学⑨(依田・大島):3自律神経系 a.交感神経系 b.副交感神経系 c.関連痛
27	感覚器学①(依田・大島):A外皮 1皮膚 a.表皮 b.真皮 c.皮下組織 d.皮膚に属する角質器 e.皮膚腺 2筋、腱、関節の感覚神経 a.筋 b.腱 c.関節 D味覚器 1味蕾 2味覚神経 E嗅覚器 1嗅粘膜 2嗅球、嗅索 3嗅覚中枢
28	感覚器学②(依田・大島):B視覚器 1眼球 a.眼球の構造 b.光受容器と網膜 c.視覚路 眼球の付属器(副眼器) a.眼瞼 b.涙器 c.眼筋
29	感覚器学③(依田・大島):C聴覚器 1外耳 2中耳 a.鼓膜 b.鼓室 c.耳管 3内耳 a.蝸牛 b.前庭 c.半規管 4平衡覚路と聴覚路および平衡覚中枢と聴覚中枢
30	総合評価(まとめ)

(2026年度)